

日本環境安全事業ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会  
東京事業部会議事要旨

JESCOでは、平成22年2月19日（金）に専門の知識と経験を有する学識経験者で構成されるポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会（主査：永田勝也 早稲田大学理工学部教授）を開催し、東京PCB廃棄物処理施設における操業状況について報告し、審議検討をいただきました。

## 検討の概要

### （1）東京PCB廃棄物処理施設における操業状況について

事務局より資料に基づき、平成21年度における操業状況、環境測定結果、トラブル発生状況及び設備改善状況について説明を行った。主な意見は以下のとおり。

#### ○操業状況について

- ・PCB(純)処理量としての計画値と、実際のPCB(純)処理量を記載すること。

#### ○コンデンサ素子予備洗浄後の液漏洩トラブルについて

- ・遠心分離機のフィルターが粗いのか、液を流すときに一緒に出てしまうのか原因究明をしっかりとすること。

#### ○コンデンサ系排気処理PCB濃度上昇トラブルについて

- ・活性炭の吸着性能が十分発揮できていない原因など、チームを作り対応する必要がある。
- ・インタロックの作動により局所排気が止まると負圧のバランスが崩れることとなるので、安全性の高い止めかた等対応について再検討すること。

#### ○HH案件・空リターナブルドラム缶の搬送について

- ・ヒヤリハットではなくトラブル扱いとなる可能性があるため、ヒヤリハットの区分をしっかりと対応されたい。

#### ○作業安全衛生状況について

- ・コンデンサは温めると漏れ易いものが多いため他事業所でも注意すること。

### （2）東京事業所内部技術評価結果について

事務局より資料に基づき、内部技術評価結果について説明を行なった。

主な意見は以下のとおり。

- ・他事業所の内部技術評価結果を反映して技術評価を実施すること。
- ・ヒヤリハット活動も技術評価の対象とするよう検討すること。